教文館　新刊案内　　4月25日発売予定

カルヴァンの救済の神学

救いの恵みの漸層法

春名純人 著

真実の慰めはどこにあるのか？

選ばれ神の子とされたキリスト者たちが苦難に呻くとき、希望はどこに見出されるのか？　人間の罪の結果、虚無に服し滅びに隷属した被造物が、キリストによって回復されるとき何が起きるか？　カルヴァンによるパウロ書簡の註解を丹念に紐解き、聖定から栄光へと至る救いの過程を跡づける。

目次

第一章　被造世界の回復と更新
第二章　神の子らの苦難と栄光
第三章　主キリスト・イエスに在る神の愛

著者紹介…春名純人（はるな・すみと）1935年生まれ。大阪大学大学院文学研究科修士課程修了。関西学院大学大学院教授、神戸改革派神学校講師を歴任。現在、関西学院大学名誉教授。
著訳書　『キリスト教哲学序論――超越論的理性批判』（教文館、2018年）、「ハイデルベルク信仰問答」（関川泰寛ほか編『改革教会信仰告白集――基本信条から現代日本の信仰告白まで』教文館、2014年所収）ほか多数。

A5判・並製・200頁・定価4,180円（本体3,800円＋税）・ISBN 978-4-7642-7472-3　C3016